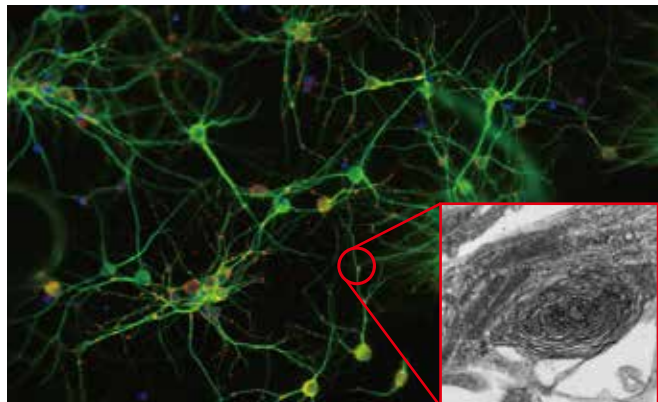


(P1の続き)

備の点から実施できる検査機関が限られています。この点を解決するために、私達は分子生物学的手法を用いて、感染性を持たない人工的な疑似ウイルス粒子等を作成して、それらを用いた安全かつ簡便な診断法の開発にも取り組んでいます。このような診断法は、医師や獣医師をはじめとした関係者と連携して、検査機関等との診断体制の構築にも貢献しています。



ウイルスが感染した神経細胞の変化の写真

また、節足動物が媒介するウイルスは、ダニや蚊といった無脊椎動物から哺乳類や鳥類などの脊椎動物へと大きな「種の壁」を越えて感染していきます。私達は動物種間でのウイルスの生態の違いに着目して研究を進める事で、ウイルスがどのように動物の体の中で増えて、病気を引き起こしていくか、といった仕組みの解明につながる研究成果を得ており、これらは将来的な治療法の開発に貢献できるものと考えています。

このようなウイルスの生態に関する研究は、人、動物、そして環境（生態系）を一体として捉える「One Health」の観点から進めなければなりません。そのためには国内・海外に限らず、医師や獣医師等の専門家だけではなく、感染症の流行地域の住民の方々をはじめとする一般の方々のご理解やご協力が必要不可欠である事を切に感じております。多くの方々のご協力に応えるためにも、感染症の流行防止対策や治療薬・ワクチンの開発等、成果を社会に還元できるような研究を進めていきたいと考えております。

## 市民公開講座の開催

令和5年3月18日（土）、市民公開講座「人獣共通感染症-ヒトと動物とウイルスと-」（講師：津田祥美准教授）を開催し、会場・オンライン合わせて約70名の参加がありました。講演では、ウイルスが細胞に感染する仕組みや人獣共通感染症



（ヒトと動物の間で起こる感染症）、特に西日本で多く見られるマダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、鳥インフルエンザなどを例として詳しく解説しました。また、これらに関連して日常生活で注意してほしいことについて説明を行いました。質疑応答では、最近海外で起こった動物の感染症や将来における感染症の克服の可能性などの様々な質問があり、一つずつ丁寧にお答えしました。講演後のアンケートでは、「感染症の研究についてさらに興味が増した」、「実生活でも活かせる話だった」などの感想をいただきました。

高度感染症研究センターでは、今後も感染症に関する市民公開講座を開催予定です。皆様のご参加をお待ちしています。



**お問合せ先** ご意見・お問い合わせはこちらまでお気軽にご連絡ください。

**長崎大学高度感染症研究センター**

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号

**フリーダイヤル** 0120-095-819

より詳しくお知りになりたい場合は、ホームページをご覧ください。

**ファックス** 095-800-4301

**ホームページアドレス** <https://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp>

